

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401947		
法人名	社会福祉法人 静雲会		
事業所名	グループホーム静園 (ユニット静園)		
所在地	〒859-2501 長崎県南島原市口之津町乙3475番地1, 3476番地		
自己評価作成日	平成22年1月12日	評価結果市町村受理日	平成22年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静園全職員でつくりあげた、理念の「いつまでも自分らしく心健やかに笑顔で過ごす楽しいホーム」をもとに、スタッフが一つのチームとなりケアの質向上を目指し取り組んでいる。アットホームな雰囲気のもと、スタッフの入れ替わりや異動もほとんどなく、毎日が馴染みの顔に会える当たり前の生活をおくっている。ケアを提供するばかりの介護ではなく、'共に生活'を楽しむことを考え、できる事、得意なこと、できそうなことは、一緒に行ったりまた、ご利用者自らも手伝ってくださったりと、それぞれたがいに助け合い、寄り添いながらの関係を築いている。また、園でのレクリエーションを通じて、新しい趣味を見つけられたり、地域で披露する機会をつくることで新たな楽しみや目標をもたれる方もおられる。人生の先輩として教えられることも多く、家庭的なよりよい関係が今後も継続できるよう、取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海水浴場を眼下にし、青い海と畑の緑を窓越しに見ながら利用者の皆さんゆったりと生活されている。ホームに携わる関係者は書類面・ケア面の向上を常とし、毎月の目標を掲げ、三月で一年の終結をし、次の段階へと、更なるステップアップに向け尽力している。今年度はカンファレンス会議に利用者本人が参加し、気持ちを伝える事で支援に変化が生まれ、介護計画の援助者には職員のみでなく、専門職や家族も位置付けている。管理者を中心に職員との連携が取れており、全ての面で協力体制が理解でき、それぞれが自己のホームの意識を持ち、どの様にするともっと良くなるか、利用者にとって何が必要か等、責任感と実行力に対する熱い思いを感じる事が出来る。利用者も自己主張をしながら自立した生活に向け、我が家のように爽やかな笑顔で、現在を楽しんでおり、職員と利用者の関係が今後どこまで充実するか楽しみなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体でつくりあげた理念を、見やすい場所に掲示し、常に意識を持てるようにしている。また、ケアカンファレンスやケア方法の話し合いの時には、理念に沿った支援が出来ているかを考えながら実践できるよう取り組んでいる。	理念を実現する為に、毎月の目標を掲げ、年間を通じて実施する事で、実践に努めている。職員は利用者の笑顔を見れる事が満足であり、一緒に生活する家族としての喜びとして、互いに共有した生活支援を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催しの情報を集め、できる限り参加し、地域との交流を深めるように努めている。自治会へ加入し地域の情報が回覧板でも知ることができる。園で行われる行事等にも、お誘いし近所の方との交流にも取り組んでいる。	ホームの周辺は地域の人が愛犬との散歩コースであり、挨拶を交わしている。地域の人がホームに来て頂く試みとして、歌手を招いてのコンサート(参加者20~30名)・夏祭り(子供太鼓の参加あり)・餅つき等ご案内している。少しずつ交流が深まり、自然に地域の中に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の保育園の子育て支援事業へ看護師を派遣し、高齢者や認知症の方との関わりやアドバイス等おこなったり、地域の病院施設へ緩和ケアの傾聴ボランティアを行う等実践している。今後も地域へ発信していける機能を活かし、取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に議題を事前に挙げ、話し合いが円滑に進むよう、取り組んでいる。また、スタッフミーティングで議題に挙げた内容も必要に応じ、意見をお聴きし、今後へ繁栄できるよう、スタッフ全員に周知できるよう、取り組んでいる。	地域の代表からはイベントの情報や顔馴染みになり気軽に相談できるようになって来た等、今年度は構成メンバーに民生委員が加わり、それぞれの役割を担った参加者の増加により、運営推進会議を開催する事で、ホームの運営の充実が図れ、一役買っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の地域福祉課や包括支援センターなどに実情や取り組みを伝え、助言や情報を頂いている。いつでも協力して頂ける体制が築けている。	利用者に関する困難事例の相談等を地域包括支援センターに繋げた経緯があり、必要に応じ、相談や指導を仰ぎ、適切に活用している。また、公的扶助を利用している入居者を福祉課の職員が訪問する事が、今後は権利擁護も視野に入れた支援を考慮中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、全職員が理解できるよう取り組んでいる。また、実際のケアで配慮できているか、話し合いできるようにしている。身体拘束を行わないことを、施設全体で提唱し、今後も取り組んでいきたい。	「拘束とは」を念頭に置き、日々振り返り、時には事例検討会を実施し、職員に周知を図っている。現在は、センサーマットを使用している利用者を拘束と捉え、家族の同意・経過観察(3ヶ月毎の再検討記録)を行い、実施している。玄関は自動ドアで、外の傾斜を考慮して、チャイムを設置し、職員が同行する等、自由な生活のお手伝いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して、スタッフ全員が徹底できる様に努めている。また、言葉や態度にも十分注意を払い、互いに確認できるような関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の存在自体は認知しているスタッフも多いが、実際に内容説明や活用方法となれば、難しい。一部のスタッフのみが周知するのではなく、全員が理解できるよう、学習する機会をつくっていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、介護支援専門員、事務長を中心にご入居者と家族が十分納得されるまで説明を行うようにしている。また、分からないことがあれば、いつでもお話しできるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などできる限り、お話し頂けるような馴染みの関係を築き、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。意見箱の設置も行っているが、本年度はより率直な声をお聴きするために、ご家族アンケートを行い、スタッフと共有し、質向上へ努めている。	利用者の意見を最優先する取り組みとして、カンファレンス会議には本人が参加し意見や希望を伝え、介護計画に反映している。家族には常に傾聴の姿勢を伝え、質問や伝達事項は個別記録の特記事項で記録している。毎月個別にお手紙を出し喜ばれている。また、今年度は家族アンケートを実施している。	利用者の家族の意向を重視し、家族アンケート（ホームで独自の書式を作成している）を実施され、前向きな取り組みの実施はあるが、報告にまで至っておらず、回答率・集計結果・アンケートの活用状況等を家族に伝え、今後益々本音が聞ける取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議を定期的に月1回行い、よりよい運営が行えるよう、意見交換を行う機会をつくっている。また、今回の自己評価もスタッフ全員へ配布し、個々に現状の要望、意見を交換できる機会を設けた。	「職員と共に」を根底に全体会議やフロア会議を開催し、職員の意見や要望を聞き取り、ホーム全体の見直しに活かしている。今年度は入浴に必要な福祉用具の充実を図り、向上に繋げている。また、職員の離職も少なく、勤務体制を柔軟にし、働きやすい職場を目指し、職員も明るく笑顔で勤務している姿が見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇希望をシフトへ反映させ、急なシフト変更などがある場合、管理者から十分な説明を行い、納得した上で変更を行っている。資格手当やスタッフの意見を取り入れながら、職場環境の充実に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への案内を随時掲示板へ張り出し積極的な参加を促している。参加者は学習してきたことを施設内でも共有できるよう発表する機会を設けている。また、毎月ホーム内での勉強会を開催し、知識の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1度、他のグループホームでのお花見を合同で行っているが、頻りに交流する機会があるとは言い難い。地域で行われる勉強会等で個々に同業者と触れ合う機会はあるが、一部に限られ、今後はもっと、開かれた交流への取り組みを行えるようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と顔を合わせ、可能な限りでの情報収集につとめ、その内容をスタッフ全員で周知し、様々な視点から安心して頂けるケア方法話し合うようにしている。また、担当者を決め、本人の立場に立ったケアの実践につなげるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などを活用し、できるだけ話しやすい関係を築けるような声掛け配慮を行っている。また、ご相談頂いたことはできる限り早めに対応し、情報をお伝えするように努めている。月に1度はご家族にお手紙を送るなどの工夫も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ間で必要な支援を意見交換し、必要と考えられる支援については、情報提供を行い、できる限り十分に本人、ご家族と話し合いの機会をつくり納得して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	味付け、野菜の下ごしらえ、洗濯物干し、掃除などできるところは積極的にご入居者様も一緒にして下さる。また、「疲れとらんね？ありがとう」などのねぎらいの言葉や「あなたたちもいつか経験するよ」などの経験話を教えて下さるような関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	園内行事や催し物のある際は、できる限り御家族も参加して頂けるように、呼びかけや毎月のお手紙でお知らせを行っている。また、面会時を利用し、ご本人の状況や出来事をお伝えし、ご家族との関係を大切にできるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の身体状況を考慮しながら、できる限りこれまで利用されていた場所(美容院、お寺、スーパー等)へ行けるようお手伝いしている。また、外出先で馴染みの方と再開された時は、「園にも遊びに来て下さい」など声掛けをおこなっている。	利用者の希望を踏まえ、電話・手紙・年賀状等、馴染みの関係への継続のお手伝いをしている。スーパーでの買い物・病院の受診・お寺参り等、馴染みの場所で知り合いと会うことが多く、時には友人を誘ってホームに遊びに来られる事が多く、本人と馴染みの人や場とのパイプ役をホームが担っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者様の入れ替わりもほとんどなく、互いに気の合う方とお話されたり、趣味を分かち合うなど良好な関係づくりが続くよう座席の配置など工夫している。スタッフは個々の個性を把握し、その場にあった対応を行い、トラブルを回避できるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、出かけ先で顔を合わせた時など、声をお掛けするなど行っている。また、ご家族の方も、時には園に立ち寄られることもある。サービス終了後も分からないことや、不安なことがあれば、いつでもご相談いただけることを説明するように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにはご本人も参加して頂き、できる限り、ご本人の口から意向を聞かせて頂けるように努めている。また、スタッフ全員が本人の思いを把握できるよう、日々の記録やご様子を記載するようにしている。	思いや意向は直接本人から聞く体制(カンファレンス会議への参加)を確立する事で、以前とは全く違う事もあり、功を奏している。また、私の姿と気持ちシートを作成する事で、生活歴の把握や職員間の共有を図る取り組みをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族面会時や、ご本人が昔のことを思い出された時など、できる限りケアスタッフ全員が周知できるよう記載している。また、フェイスシートを活用し、新たな情報も追加し記入している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスやフロア会議でご入居者個々のご様子をスタッフ全員で情報交換し、共有している。また、利用者一人一人の状況把握のために、(私の気持ちシート)の作成を行った。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者参加型のケアカンファレンスを行い、その気持ちや、どの様に考えているか等の方向性を一方的に決定するのではなく、多角的な視点で見れるよう工夫を行っている。また、内容はご家族とも話し合いをし、必要に応じて、医療機関等とも情報交換を行っている。	利用者と家族の主訴・ケアチェック表で状態の把握・職員の気付きを踏まえ介護計画書を作成している。3ヶ月毎のモニタリングで、満足度・修正理由を確認している。援助内容の担当者に職員・専門職・家族を明記し、利用者に関わる人々の参加を位置付けている。また、個別記録に計画を明記し、職員間での共有と実施状況に繋げている。更に書式の変更に向け思考錯誤を実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を記録上の見やすい位置に記載し、それに基づいた記録が行えるよう工夫している。状況変化や本人の気持ちが聞かれた場合など、細かく記載するように心がけ、スタッフ同士の情報共有できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	保育園児の慰問や、月1回の御法話など、同法人の多機能性を活かした活動を行っている。また、ボーイスカウトや空手など、地域で活動を行っている方からの協力も得られている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、自治会長や民生委員に入って頂き地域の催しや、習わしなど情報をもとに参加しやすい体制をつくっている。また、消防署と連携をとり、ご入居者の把握、安全安心な生活が出来るよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にこれまでかかっておられた病院がかかりつけ医であるため、ご入居前からの状況把握がしやすい。ご家族からの相談や、ご本人の状況変化に応じて、担当看護師がかかりつけ医へ相談、対応を行い、ご本人ご家族が納得されるまで意見交換を行うようにしている。	入居前からのかかりつけ医への受診同行や往診を実施し、管理者が看護師であり利用者の健康管理に努めている。必要に応じて、歯科指導や嚥下指導をお願いしている。医師・家族・ホームが連携を取りながら、適切な医療支援に尽力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や、気づきは記録へ記入し、情報共有出来るようにしている。また、常勤看護師へ相談し、対応できるシステムをつくっている。必要に応じて対応方法、受診等検討を行い、医療機関とも連携できるような体制をつくっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態に変化がある時は、そのつどかかりつけ医へ相談、受診を行っている。状況はご家族にもそのつど報告を行い、入院が必要な場合も対応している。また、退院に備えて、入院中から医療機関とも連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた今後の状態を主治医からも情報提供頂き、本人、ご家族がどの様に考えているかを、そのつど必要時に話し合うようにしている。また、スタッフ間ともその状況を共有し、方針を決定している。今後、看取りに関しての、園での方針や対応を具体的に話し合いながら、提示していく。	今までに看取りの経験は無く、医療連携加算に伴い、看取りに関する指針を基に家族への説明と同意を得ている。利用者の状態の悪化に伴い、医師の判断を仰ぎ、家族に説明を行い方向性を明確にする方針である。現時点ではマニュアルを作成し職員に共有を図る予定であり、今後の取り組みを課題として掲げている。	看取りを実施するに当たっては、多くの課題が発生する事が考えられる。同じ条件で看取りを実施している事業所の事例検討会を実施し、医師を含め、家族・職員・利用者のそれぞれの立場を踏まえた、協働に繋がる取り組みができる体制の確立を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルや、事故発生に備えての勉強会を行うなど、園での適切な対応方法を全スタッフで検討している。しかし、定期的な訓練は行っているが、実践となると、自信がないと答えるスタッフもおり、今後も実践に向けた訓練が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、風水害に対するマニュアルを設置。夜間時に備えての対応訓練も実践している。地域の区会長や民生委員の方にも災害時の危険性を伝え、協力体制は築いている。	年2回消防署の立会いで火災・避難と今年度は地震の避難場所等の訓練を行い、夜間体制や避難誘導の順番等の話し合いを実施している。職員の不安や危険ヶ所は全体会議で事例を挙げ、具体化している。備蓄(発電機を含め)は法人のお寺に準備され、持ち出し品のチェックも行っている。今後も継続した訓練の実施が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報やプライバシーにかかわる書類等は事務所にて厳重に管理している。また、対応についても、ご本人の尊厳を尊重した対応を心がけ、接遇マナー等にも日々ケアを行う際忘れがちになっていないかの配慮を互いにもつよう配慮している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、さりげない支援を月目標に取り入れている。利用者への声掛けには常に注意を払い支援している。書類や記録物の保管にも十分注意を払っている。個人情報の利用目的や保護方針に関する書式の工夫を早急に取り組む予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のやりたいことや希望を訴えられた際は、できる限り、その希望が実現できる様に努めている。(例＝昔一緒に住んでいた家族に会いたい→会いに行く。昔つくっていたおやつを食べたい→一緒に作る)など。些細なことを実現していくことで、やりがいや生きがいを見つけて頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や気分によって、日々生活して頂いている。したくないことや、嫌なことがあれば、そっと見守り、タイミングを見計らいながら声掛け等の工夫を行っている。また、必ずご本人へ確認をとるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身体状況や本人の気持ちに合わせながら、一緒に衣服を選んだり、マニキュアや口紅でおしゃれを楽しんだり、その日の気分でお手伝いしている。また、外出や行事がある時はその場に合わせ衣服やおしゃれが楽しめるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(下ごしらえ、食器準備、味付けなど)できる事は一緒に楽しみながらできるよう支援している。また、季節や行事に合わせた食材や食事の工夫を行っている。時には、外出し、環境を変えて食事をを行う等の工夫も行っている。	食事に関する一連の作業の出来る人は一緒にしている。今年度は玄関にプランターで野菜(葱・サラダ菜等)を栽培し、時には食卓を賑わせている。利用者の体重管理をしながら食事のバランス・切り方・お粥等健康面や咀嚼や嚥下を考え提供している。楽しみの一環として行事の時には沢山食べて頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに偏りがないように配慮した献立工夫を行い、必要に応じて同法人の栄養士へカロリー相談等も行っている。水分や食事量も一目で誰でも把握できるよう、記録の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き支援を個々に適した援助方法で行っている。また、週1回は義歯洗浄を行い、口腔内の清潔に心がけている。必要に応じて、歯科医師、歯科衛生士による口腔ケアや相談をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りおむつに頼らない排泄ケアの提供を行っている。定期的な声掛けや、排泄パターンを把握するための記録の活用をおこない、本人がどのような気持ちでいるのかをさりげなく聴きだし、その意向を反映していくように努めている。	排泄パターンを把握する事で、利用者の殆どがハビリパンツと布パンツに尿取りパットであり、オムツの利用者もトイレ誘導を行っている。失禁時の対応等居室や浴室で行い、人目に触れないことや、他の人に気付かれないように配慮することで、羞恥心や不安を与えないように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排泄パターンを把握できるよう記録の工夫を行い、必要に応じて看護師へ相談もしている。できる限り自然排便を促すため、運動や水分補給、腹部マッサージ、トイレでの排泄等をスタッフで話し合い実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、安全性を配慮し日中に行っているが、現在その他の時間帯に入浴を希望される方はおられない。不快のないような声掛けの工夫や、羞恥心への配慮も行っているが、それが楽しみへ繋がっているものか、今後も検討が必要。	入浴日は週3回であるが、希望があると拘らない体制である。拒否者には清拭や部分浴をしている。こっそりと「今空いてるよ」等声掛けを工夫し、時には気の合う人と一緒に入ったり、汗をかいて貰う事や季節の湯(柚子湯・菖蒲湯等)で目先を変え、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方がおられたら、一緒にお話したり昼寝を希望される方がおられれば、休むことができるようお手伝いするなど、自由に休息がとれるよう支援している。また、できるだけ夜間はぐっすり眠れるように、日中の活動を促すなど工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬準備時ダブルチェックを行い、処方箋とも照らし合わせ用法、容量に間違いがないか確認をおこなっている。また、服用直前にももう一度、本人のものであるが、日付等も確認し行うようにしている。マニュアルにも細かく手順を記載し、ミスのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクの中でもその日に合わせ、個々の得意なことや、興味の持てるものをレクリエーション係を中心に企画したり、気分転換の外出支援を行っている。花壇を利用し、野菜や花の栽培をご入居者と一緒に楽しんだり、工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	すべての希望に沿う事は困難であるが、買い物や実家へ立ち寄るなど本人の希望に合わせて出かけられるように支援している。身体状況にもよるが、車いすでも出かけられるように、身障者トイレの確認も行い、安心して出かけられるように努めている。	職員は外出を大切に考え、不十分に感じているが、1週間に1回のペースで買い物・受診・足湯・花見・紅葉見物等で外出の機会を設けている。利用者が日光や外気に触れる機会を増やす事で外出と捉えたと、殆ど毎日出来ており、特別に遠くへの外出と日常的なホーム周辺を取り入れ、満足に繋がるように工夫をしながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意思と、ご家族への相談のもと、その力に応じてお金を使えるような支援を行っている。できる限り、普段から使用されていた財布は持って頂き、安心して頂けるような支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも電話したり、かけて頂く事が可能である。また、最近は手紙やはがきを出したいとの要望に応じ、一緒にはがきを書き、しばらく連絡の途絶えていた、遠方の家族とも連絡がとれるような支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が作成された品や、スタッフと一緒に作った思い出の品、また、出かけたときやレクリエーションをした時の記念写真など、楽しかった思い出がいつでも視界に入ってくるような環境の工夫を行っている。また、飾り付けや生け花なども入居者様が率先してできるような声掛けを行っている。	ホームの窓越しからは畑や海が見え、季節の移ろいを感じる事が出来る。ホームは静かな場所にあり、明るく落ち着いた雰囲気嫌な臭いはしない。共有部分は広く、利用者が寛げる場所は十分確保され、リビングで過ごす時間が多い。利用者と一緒に作成した作品を飾り、過度な装飾は無く、家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置や工夫を個々の状況に合わせて、工夫している。また、居間やソファの場所を工夫し、誰もがいつでも居心地良く過ごして頂けるよう、配置している。今後も状況に合わせて、考えていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は個々に昔から使用されていたものや、自分で愛着のあるものを持ち込まれ、馴染んだ生活が出来るようになっている。また、畳での生活を行われていた方は、園でも継続できるよう配慮している。	利用者にとっての必需品で筆筒以外は全て居室に持ち込み、上手に配置する事で、行動範囲を確保している。数名の居室を見せて頂いたが、畳と床を希望により提供し、それぞれ違い、その人の生活が滲み出ており、我が家としての機能を満たしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものがないよう、環境整備に努めながら、個々の力にあわせて、分かりやすく場所を提示したり、手すり等も使用しやすいよう設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401947		
法人名	社会福祉法人 静雲会		
事業所名	グループホーム静園 (ユニット静雲)		
所在地	長崎県南島原市口之津町乙3475番地1, 3476番地		
自己評価作成日	平成22年1月12日	評価結果市町村受理日	平成22年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの目につきやすい場所に理念を貼り、毎月、理念に基づいた月目標をスタッフ同士で話し合い、理念の実践と意識付けに心がけ、日々の取り組みに活かしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会員にホームとして入り、入居者も回覧板などを見たり、地域の行事などに作品を出展したり、もちつき大会の餅を町内の人に配ったりしながら積極的に取り組んではいるが、日常的な交流までには至ってはいない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の子育て支援に看護師を派遣したり、他の病院に緩和ケアの傾聴ボランティアを行っている。地域住民に喜んでい頂けるような事業所が持つ専門性や実践力を活かした取り組みを今後も続けていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前に話し合う内容を委員の方にお伝えして、会議の時には意見が出しやすいように配慮を行っている。会議の内容については、スタッフ会議において報告を行い、地域行事への参加、改善すべき目標としてサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の地域福祉課や包括支援センターなどに実情や取り組みを伝え、助言や情報をいただいている。いつでも協力していただける体制が築けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会等を行い、マニュアルを作成している。スタッフ一人一人が心がけ、お互いが声を掛け合いながら、これからも努めていく		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で周知徹底に努めている。スタッフ同士で意識しながら、特に言葉による虐待についてはホーム全体として注意し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、言葉は聞いたことはあるが、内容について問われると他の人に説明を行い、活用していくまでの理解には至っていない。今後、権利擁護のDVDなどを使って、ホーム全体として理解を深めていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、施設長・介護支援専門員・事務長が入居者と家族に十分説明を行い、家族が納得されるまで説明と話し合いを行っている。内容に変更がある場合は、そのつど説明を行い同意を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフの変動を最小限におさえ、入居者と馴染みの関係を築き、意見や要望を言いやすい環境に努めている。玄関入口には意見箱を設置している。またホーム独自の家族アンケートを行い、スタッフ同士で話し合い、支援に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	外部評価に伴う自己評価を個人個人に評価してもらい、施設長や主任と意見交換を個々に行っている。全体会議やフロア会議を毎月行い、お互いに意見や提案を聞く機会を設け、ホームの運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望をシフトに反映させ、急なシフト変更などがある場合、管理者から十分な説明を行い、納得した上でシフト変更を行う。資格手当やスタッフの意見を取り入れながら、ソフト・ハード両面からの充実に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、独自の勉強会を行っている。外部の研修会の案内は、随時、掲示板に張り出し参加を呼び掛けている。個々の実績と経験に応じた研修には積極的に参加を呼び掛け、ホームにおいて研修会で学んできたことを発表する時間を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に一度、他のグループホームの方とお花見を合同で行ってはいるが、相互訪問等の活動を通じて、サービスの向上に反映させているとまでは言い難い。今後は、新しいGH協議会も立ち上がったので、ネットワークづくりや交流にも努めたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の希望や家族構成などについてスタッフ同士で充分話し合い、入居者一人ひとりに担当を決め本人が孤立しないように配慮している。カンファでは本人も参加してもらい、本人の希望や不安など聴きながら支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望を聴きながら、いつでも相談や意見が言えるように意見箱を設置し、月一回の家族の手紙で入居者の現状、通院記録、毎月の予定などを知らせている。また家族アンケートなどを行い、入居者の支援に反映させている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の見極めについては看護師とスタッフ間で話し合い、日々の生活の中で利用者の健康状態や、その日の調子に合わせた声掛けなどを行いながら工夫している。入居者が自分らしく生活できるように傾聴をおこない支援に努めている		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る入居者は野菜などの下ごしらえや掃除など一緒に行っている。町の文化祭の作品作りや梅干し作りなど、お互いが一緒に達成する喜びを分かち合い、昔を思い出して頂き、話を傾聴させて頂くことで、生活を共有できる様に工夫している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや敬老会など大きなイベントの時には参加を呼びかている。担当者は入居者お一人お一人の現況を一カ月に一度はお手紙でお伝えしている。利用者の体調の変化には看護師が対応しながら、必要に応じて家族へ連絡を取っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺や馴染みの美容室、ショッピングセンターなど、本人の希望に合わせて出かけるように努めている。お正月やお盆にはお墓参りや、実家にお連れし、ご近所の方にも声掛けをしながらご近所とのつながりも途切れないように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性に配慮しながら席の配置や、お風呂の順番なども決めている。しかしながら、認知症にともなう妄想や病気の重度化に対する行動について、利用者同士のトラブルに対するフォローや声掛けには要努力が必要		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、家族とお会いした時は挨拶をするように心掛けている。また、身体の状態に応じて、他の施設に移り住まれる時は、本人とご家族と次の移り住まれる関係者と十分に話し合い、いつでもフォロー、連携できる様に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスに本人も参加して頂き、思いを聞きだしたり、フロア会議等で検討を重ねている。個々に担当を決め、希望や意向に添えるように努めてはいるが、すべての希望に応えているとは言い難い		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し送りノートや生活の記録等で細かく個々の状態を全員に伝え、チームとして取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今年度は、あらためて利用者一人ひとりの心身の情報(私の気持ちシート)を利用して、今現在の心身状態、生活のリズムの再確認などにも努めた		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を尊重し、本人を交えたカンファレンスを行っている。家族の意向に配慮しながら、スタッフ同士で話し合い、現状の把握に努めながら介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の記録や、申し送りノートに細かく情報を記載し、24時間途切れない支援を実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	保育園児の慰問や、御法話など同法人の多機能を活かした活動を行っている。また、ボーイスカウトや空手など、地域で活動を行っている方からの支援も得られている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地区会長や民生委員に入って頂き貴重な意見などを頂き、日々の活動にを活かしている。消防署と連携を取りながら、利用者の安全と安心にも取り組んでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望される病院に受診をお願いしている。必要に応じては病院より往診していただく。利用者・家族の意見などは、専門知識のある看護師が病院との仲介となり、入居者・家族が納得されるまで意見交換を行う		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノート、日々の記録等で情報を細かく伝え、利用者の急変や気づいた事があれば、常勤の看護師に伝え指示を仰ぐように連携を図っている。必要に応じて医療機関の医師や看護師にも連絡を取りながら支援に当たっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護職とかかりつけ医で連絡を取り合いながら、入院時には、サマリー、生活の記録等を提供し、速やかに情報が伝わるように努めている。早期退院に向けて、利用者と家族とも相談しながら、病院関係者と連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針や病院関係者との協働関係は築けている。勉強会等において話し合い、ホーム内で重度化・終末期のあり方について意識は高めてはいるが、実際、家族がどの様に関わるのか、地域の関係者との支援をどの様に行うべきかは、今後、さらに取り組むべき課題である		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、勉強会等を行っている。時には、消防署の方などに来て頂き、外部からの協力も得ながら訓練を行っている。しかしながら、すべての職員が迅速な対応、実践力を身に付けているとは言い難い。、今後も定期的な訓練等を重ねる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時だけではなく、地震や水害時を想定したマニュアルもある。夜間時における、一人での利用者の誘導、声掛けなども訓練等を実践している。地域の区会長や民生員の方には、災害時の危険性などを伝え、協力体制は築けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報については事務所で厳しく管理を行い、他に持ち出さないようにしている。入居者の尊厳に配慮した声掛け、誘導などにはホーム全体として努めている。接遇に関しても、自分勝手な対応になっていないかホーム全体で取り組んでいる		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が希望される事について、カンファに本人も参加して頂いている。普段の生活の中で、入居者ひとり一人の表情や体調を見ながら、こちらの都合による押しつけにならないような声掛けを行い、過ごしやすい環境に配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランに基づいた、その人らしい生活のリズムを大切に考えた支援に努めている。すべてが入居者の希望に添えているとは言い難いが、声掛けや見守りなど、スタッフひとり一人が心がけるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添って馴染みのお店や美容院にお連れしている。病院であっても、本人に確認しながら着ていくものや、帽子なども選んでいただき、外出できる様に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえを手伝って頂いたり、食事の感想や、味付けなどを聞きながら調味料も調整を行っている。ご飯は、なるべく季節に旬のものを選び、温かいものを利用者が揃ってから頂けるよう声掛けの順番なども配慮している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが偏らないような献立を考えている。一日の水分量や食事は記録等に記録し、入居者の体重の変化や健康状態に配慮しながら、必要に応じて、好きな物を捕食することもある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。入れ歯は週一回、洗浄剤で消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者ひとり一人の排泄パターンに合わせ、声掛けや誘導を行っている。入居者の尊厳に配慮し、おむつやパットを利用するときは、スタッフ間で検討を重ねながら、少しでも自立に向けた支援に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護職員が中心となり、水分量を多めにしたり、適度な運動を行いながら予防に努めている。状況に応じて、掛りつけの医師に相談をしながら便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとり一人の希望に添えているとは言い難い。時間帯は利用者の安全面を優先し、お昼間の時間帯に合わせ入浴をして頂いている。個々にそった入浴とは言い難いが、季節に合わせ、ゆず風呂やしょうぶ湯などお風呂を楽しむ工夫も行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り日中の離床を促し、居室内の温度調整に配慮しながら、24時間体制で支援に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんと照らし合わせ、何度もチェックを行っている。利用者が飲みこまれたかを必ず確認を行っている。薬の作用、副作用については勉強会等で話し合い、ミスがないようにスタッフ同士でも声を掛け合いながら取り組んでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の行きたいところ、楽しみに合わせた外出を心掛けている。昨年からは花壇などに野菜などを植え、利用者の手伝って頂き、役割や楽しみにつながるような取り組みも行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	すべての希望にそう事は難しいが、お墓参りや実家など、本人の希望に合わせて出かけられるように支援している。車いすなどでも出かけられるように事前に身障者トイレがある場所なども確認し、安心して出かけられるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の同意のもとに、お金の管理は希望にそって自由に使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも電話できる様に、事務所前には公衆電話を設置している。年賀状なども本人の希望に応じて書いて頂くように支援に努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感のある手作りの作品や、春夏秋冬の行事やレクリエーションの写真などを貼って居心地の良い空間づくりに工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに畳の空間があり、思い思いに新聞を読んだり、お昼寝をしたりしてくつろがれている。外にベンチを置き、夏などは外のベンチで気の合った入居者同士で涼みながら雑談をされたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス以外は入居者と家族で使い慣れた物を持ってきて頂く。本人の希望によって和室か洋室を選べるように配慮している。ベットも本人が希望されなければ畳に布団をひくなど、なるべく以前の生活環境と変わらないように配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや物の配置場所など、入居者が安全で安心して暮らせるように配慮している。日めくりカレンダーや時計の場所や大きさなどにも気を使いながら、快適な空間のなかで、入居者が自立できる様に工夫を重ねている		